



発行所
岐阜市八ツ寺町1-15
NTT労組退職者の会
岐阜県支部協議会
☎(058)265-4041
発行責任者
武田康郎



第22回支部協総会議案書(案)

ダイジェスト版

第22回NTT労組退職者の会岐阜県支部協議会の総会につきましては、新型コロナウイルスの影響により、例年と同様の代議員の出席による会議開催を断念し、書面による開催とさせていただきます。
審議する議案は次の通りです。ご意見等は代議員(各地区の役員)までお寄せ下さい。

2019年度 活動報告 《案》



3名となり、前年度より19名減少しました。2020年活動方針等について後日確認しました。また、現役分会が主催する各種行事①新春、囲碁・将棋・麻雀大会、②法律相談学習会に参加するなどして連携を深めました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から20、④メーデーは開催が見送られました。

1、組織強化の取組み
(1) 会員数の動向
2019年度の新規加入及び転入会員は合計54名であり、自然・任意脱退者及び転出者の合計は73名で、9月30日会員数は2,666名と減少しました。

2、親睦と交流を深める取り組み
(1) グラウンドゴルフ交流会
第19回グラウンドゴルフ大会は、11月19日(火)、関市中池公園グラウンドで開催し、岐阜、西濃、中濃、飛騨地区から64名が参加しました。

3、福祉向上を目指す取り組み
全国に先駆け、支部協議会独自の活動状況掲載している「友情」に掲載し、会員の募集等を支援しました。

4、各種サークル活動の支援
今年度は、サークル27、ボランティア18団体の合計45団体が、積極的に活動を展開しました。その活動報告に基づき、経済的支援を行いました。

5、電通共済加入促進活動の取り組み
今年度も、昨年引き続き生協本部から、全会員へ加入申込書が送付され、加入内容を変更されない会員は、自動継続扱いとなり、加入内容の変更を希望された会員は、申込書を送付し、11月に口座自動引き落としの取り組みとなりました。

6、「ありがとう」施策の実施
「ありがとう」施策では、古希152名、喜寿127名、米寿51名、合計330名の会員にギフト券が贈られました。

7、選挙の取組み
4月26日に投票された瑞穂市議会議員選挙では、組織重点候補の「松野とうしろう」君が528票(16位)で見事5選を果たしました。

(2) 退職者の組織化
3月末における定年等による退職者予定者は67名であり、NTT労組グループ連絡会と退職者の会の連携により、退職説明会を岐阜、中濃地区で開催し、入会勧奨を積極的に行ない、41名(61%)の新規加入を獲得しました。

(3) カラオケ交流会
第24回カラオケ交流会は、6月3日(水)ホテルパークで開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、中止となりました。

(4) 各地区協議会の親睦行事
岐阜地区協議会では、3月27日に花見(ホテルパーク)を計画されましたが、止む無く中止となりました。

8、研修会の実施及び法律相談活動
総会に引き続き「2019年度の課題」と題して、武田会長による、社会保障制度や年金・医療・介護などの物事の本質を見抜くことの大切さとして、旬の話題や政治を考えるポイント

9、岐阜県退職者連合会との連携
総会、生涯学習セミナー等に支部協及び岐阜地区協議会を中心に参加し、連携を深めました。

10、機関紙活動
支部協機関紙「友情」を、1月、4月、7月、9月の4回発行し、主にホットな話題を中心に掲載し、合わせてサークル、ボランティアの活動を紹介しました。

不易流行

NTT労組退職者の会岐阜県支部協議会
会長 武田康郎

新型コロナウイルスの拡散が止まりません。毎日報道される感染者の数は増えていくばかりです。マスク・手洗いに始まり、いわゆる「三密」を避けることや、ソーシャルディスタンスに注意しろだとか言われ続け、私たちはひたすら窮屈な暮らしを受け入れてきました。なぜなら、そうすることが自分の身を守り、他人にも迷惑を

かけないと考えたからです。しかしそんな中で政府の「GOTOキャンペーン」が始まりました。経済活動を活性化させるために旅行に出かけなさい、とのこと。しかし、このキャンペーンの発表直後には「お盆の帰省は極力控えて」という報道があり、「おかしな報道がないか」との問いかけには「画一的に自粛をお願いしている訳ではない」とのこと。一体何を信じどうすれば良いのかさっぱりわからない、というのが人々の率直な気持ちではないでしょうか。自粛の徹底と経済の活性化は明らかに相互に矛盾したテーマであり、この二つを同時に進めようとするところに難しさがあるのではないかと思います。

江戸、東北、北陸から岐阜・大垣を旅し紀行文「奥の細道」をまとめました。俳聖松尾芭蕉と岐阜県大垣市のつながりは深く四度来垣しており、大垣は「奥の細道むすびの地」として知られています。大垣市内には芭蕉の句碑が多数存在しており、「奥の細道むすびの地」記念館も開設され、関係資料の展示が行われています。さてその松尾芭蕉ですが、「奥の細道」の旅から7年後、故郷・伊賀上野へ向かう旅に出ます。京や奈良を巡った後の9月、芭蕉は不仲になった二人の弟子の間を取り持つため大阪に向かうことになりました。し

かしその途中体調を崩してしまい、10月には知人の家で床に就いてしまいました。この時、芭蕉が病床で詠んだのが「旅に病で(やんで) 夢は枯野を かけ廻(めぐ)る」の句です。病に倒れてもなお、夢の中で草木が枯れた冬の野を駆け巡っていると詠った芭蕉の執念には、心打たれるものがあります。ところで、「蕉風俳諧」と言われる「蕉風俳諧」に「不易流行(ふえきりゆうこう)」という言葉があります。不易とは時代を経ても変化しないもの、流行とは新しさを求める時代の沿って変化することの二つの言葉は、本来正

反対の意味ですが、この両者を組み合わせることによって「物事には、変わらないものと変わるもの両方が必要であり、そのバランスが大切である」という考えを表しています。コロナ禍の中で、毎日様々なことが起きています。私たちは、雑多な情報に惑わされることなく、人々を大切に思う気持ちを強く持ち続けながら、一方で新しい生活のスタイルや暮らし方を模索するという努力をすることが大切だと思います。それがコロナ禍を生き抜くために必要なのは「知恵」だと思いませんか。

11月にそれぞれの地区においてサークル代表者との意見交換会を開催しました。会場やグラウンドの確保、新規会員の募集など苦勞話もあるなか、活動を通じて「生きがい」、「社会貢献への満足感」などもあり、メンバーの生き生きとした姿に接することができました。

を、判り易く、熱く語り、有意義な時間を過ごしました。法律相談活動は11件あり、顧問弁護士を紹介しました。

再周知 「災害時緊急連絡票」作成のお願い

昨今、多くの自然災害により、全国各地に甚大な被害が発生しました。その際、会員の安否確認の困難さが数多く報告されています。これを受けて、岐阜県支部協議会では、災害時の一助となればと考え作成をお願いしています。
未だ、3割弱の方から提出がありません。未提出の方、お手元にありましたら、お送りください。また、連絡先等に変更がある方は、ご連絡ください。
(問合せ先) NTT労組退職者の会 岐阜県支部協議会 波多野、小野(☎058-265-4041)

